

東京オリパラ
ホストタウン

ミャンマーから公使ら

延岡市

中学校で生徒と交流

ミャンマー大使館のキン・ニラー・ソウ公使がきょうまでの3日間、来

衣を身に着け、公使らを体育館で出迎えた。

川島校長のあいさつに続き、この日のために1カ月前から準備を進めてきたという「ミャンマーおもてなし隊」の木下百果部長が「訪問を楽しみにしていました。美しい北浦の町を紹介します。楽しんでください」と英語で歓迎の言葉を伝え

元のお茶を提供。スティージのスクリーンを使いながら日本茶の歴史、日本とミャンマーのお茶の違い、北浦の茶畑、茶摘みの様子などを英語で紹介した。

跡などについても解説し、「学校が休みになったらミャンマーを訪れてください」と呼び掛けた。

この後、生徒たちは威勢の良い掛け声と息の合ったソーラン節や御神楽(みかぐら)も披露。公使らはその様子を熱心に見入っていた。

公使らは10日に来延

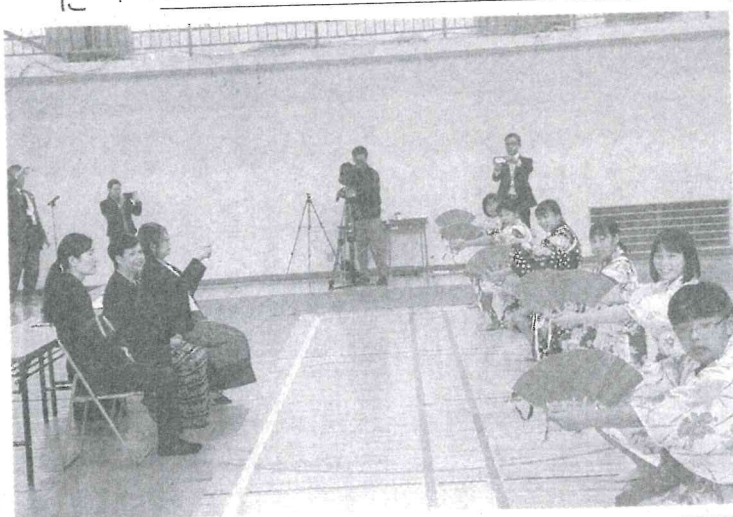
ミャンマー公使らを前に御神楽を披露する生徒

年の東京五輪・パラリンピックのホストタウンとなっている延岡市を訪れた。11日は北浦中学校、南中学校を訪問、総合学習の講師として講話したほか、生徒たちと交流を深めた。

このうち、北浦中学校(川島正寛校長、55人)では、生徒たちが大漁旗などで作られた法被、浴

生徒は日本流のおもてなしとして、公使らに地

続いて、公使がミャンマーの国や都市、学校での生活、学習する科目などを説明し、「日本の学生は自分のことを自分でするが、ミャンマーでは両親がするので本当に感心します」。文化や祭り、遺



し、第23回城山かぐらまつりを見学したほか、この日はイオン延岡店で開かれていた「延岡・ミャンマー交流ハネル展」も視察した。